

•会報第4号の発行によせて•

今年はご承知の通り、京都での展覧会の開催年となっております。

中国、ブルガリアとの交流展に引き続き、今年はタイの版画作家との交流展を開催する運びとなりました。

同じアジアでも、日本とはまた違った趣きの作品が多く見られることでしょう。

今回の会報では、今年開催される日本・タイ国際版画展に向けて少しでもタイについて知って頂きたいと思い、タイの版画について紹介致します。

また、作家紹介では今年3月に平安画廊にて開催される『版画KYOTO展実行委員会新鋭展』の出品作家である大野經典氏を取り上げました。

それぞれ、大変興味深い内容となっておりますので、是非じっくりと読んで下さい。

Ohno Keisuke

大野 経典



「天緩児」
85cm×83.5cm 木版（一版多色法）
2004年8月制作

Contents

■会報第4号の発行によせて

■作家紹介 大野經典さん

■タイの版画について
～和歌山県立近代美術館学芸員
奥村泰彦～

■第4回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展
グランプリ池田満寿夫大賞は角間貴生さん

■特報！日本版画協会展搬入、搬出代行について

■公募展案内

■掲示板

■編集後記



作家
紹介Ohno Keisuke
大野 経典 さん

「作家活動とは何かを考える」をテーマに編集スタッフがお話を伺います。今回は大野経典さんです。大野さんは京都から沖縄へと移り、現在沖縄にて制作をなされています。人物を中心とした、とても力強い木版画をつくっておられます。また、2005年3月に平安画廊にて展覧会も開催される予定です。

- Q1.**ご自身の作品について（テーマ、コンセプト等）
- Q2.**作品を作る上で、1番大事にされている所はどんな所ですか？
- Q3.**グループ（団体）に所属して作品を発表する事について、どう思いますか？
- Q4.**大野さんは3年前から、製作の場を京都から沖縄に移されました。沖縄に移った事で、ご自身の作品に影響している事はありますか？また、作家活動を行う上で、京都と沖縄では違いがありますか？
- Q5.**今後の作家活動について、将来の夢など教えてください。
- Q6.**沖縄のお勧め料理はありますか？また、沖縄で驚いた食材はありますか？

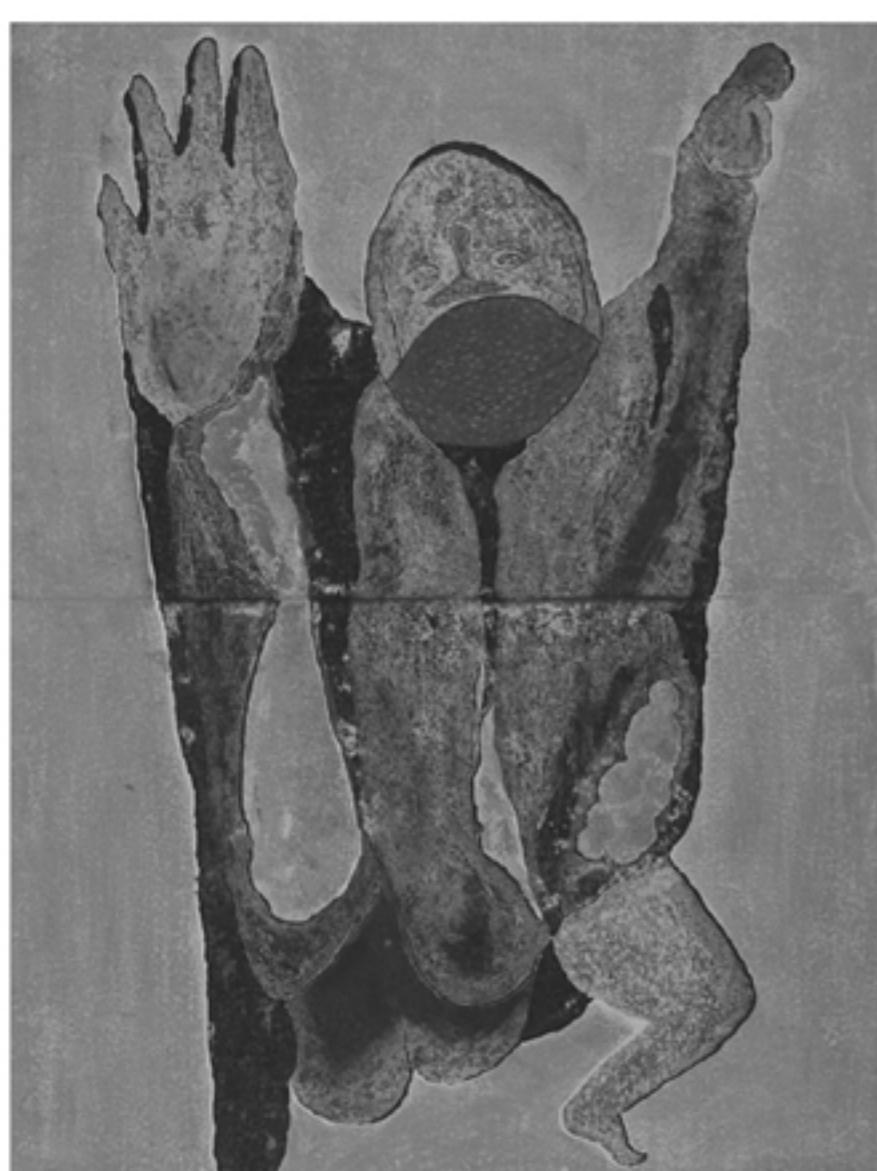


<A1>

日常の生活の中で、人との対話や様々な事柄の中で感じている、感情や欲望は、自分の弱さや性質と直結するものであり、それらの感情を表現し追求することで、本質的な自己の存在を見いだしていくと考えています。また、その作品を観る人達と、共有し得る部分をより多く持つことは、私にとって重要な要素であると考えています。

<A2>

自分の中で、大事な事や拘る部分は沢山ありますし、どれが一番かと問われると簡単には答えられないのですが、色や質感、目の表現や身体の線の細かい表現などは、特に意識しているところではあります。また、作品から醸し出される空気感や雰囲気も、大事なもの一つにあります。



<A3>

日本版画協会に所属することになって、まだ1年足らずなので、特に今まで通りに作品を発表しています。ですが、やはり協会に所属することで得た展示機会などもありますし、また版画に関する多くの情報を知る事ができる様になったと思います。

<A4>

5年前に、沖縄県立芸術大学院の進学の為に、沖縄にきました。沖縄の文化に触れ、沖縄で生活する中で想像した作品制作は、京都での制作と比べて、より自由な発想・視点を持ってとり組めたと感じています。沖縄は、高い湿度と乾燥の変化が激しい気候なので、紙や版木を扱う上で苦労し、工夫して対応した面はたくさんありました。

<A5>

これまでの、国内での公募展への作品発表は、これからも続けていきたいと考えています。そして、個展・海外への公募展への出品等の、展示機会も積極的に増やしていきたいと考えています。

<A6>

ほとんどの沖縄料理を美味しいと思います。その中でも好きなのは、「ナーベラ」と呼ばれるヘチマの味噌炒めで、ヘチマが、沖縄でとても身近に使われる食材であるのにも驚きました。他に好きなのは、さんぴん茶とオリオンビール。この二つの飲み物と沖縄で出会えた事は一生の宝になりそうです。

左 「僕生来」
90cm×120cm
木版(一版多色法)
2004年

右 「器」
90cm×60cm
木版(一版多色法)
2004年

プロフィール

- 1977年 鹿児島県生まれ
1996年 京都精華大学美術学部造形学科版画専攻入学
1998年 交換留学生としてオーストラリア国立キャンベラ大学に半期留学
2000年 京都精華大学美術学部造形学科版画専攻卒業
2002年 沖縄県立芸術大学環境造形専攻絵画大学院卒業
2003年 沖縄県立芸術大学工芸専攻／木版画実習の非常勤講師

主な活動
1999年 第24回 全国大学版画展 出品
(同展にて、第25・26回に買い上げ賞 第27回に出品)
2000年 PORTFOLIO 00=01 共同画集制作展 in ベルギー
交流合同展示「美術と地域」展に参加(長崎ブリックホール)
2001年 第2回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ 入選
第7回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展 入選
ふくみつ棟方記念木版画大賞展 入選
あおもり版画トリエンナーレ2001 1部優秀賞
2002年 第70回記念日本版画協会展 奨励賞
日本版画協会展受賞者展 (時津画廊・星が丘ギャラリー)
第2回山本鼎版画大賞展 入選
2003年 第55回沖縄版画部門 奨励賞
第3回飛騨高山現代木版画ビエンナーレ 入選
第119号版画芸術第2特集木版画ダイナイズムの系譜に掲載
『版の表現』版画6人展(沖縄 ギャラリーアトス)
2004年 第56回沖縄版画部門 入選
第10回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞展 準大賞
第72回日本版画協会展 立山賞 準会員推举
元麻布ギャラリー Okinawa にて2ヶ月間 常設展示
ふくみつ棟方記念木版画大賞展 入選
日本版画協会展受賞者展に出品(時津画廊・星が丘ギャラリー)
木版画三人展『木三色』(元麻布ギャラリー Okinawa)
『P-point』沖縄大学絵画教員展(沖縄県立芸大 企画展示室)
あおもり版画トリエンナーレ2004 入選
木版画二人展(元麻布ギャラリー Okinawa)

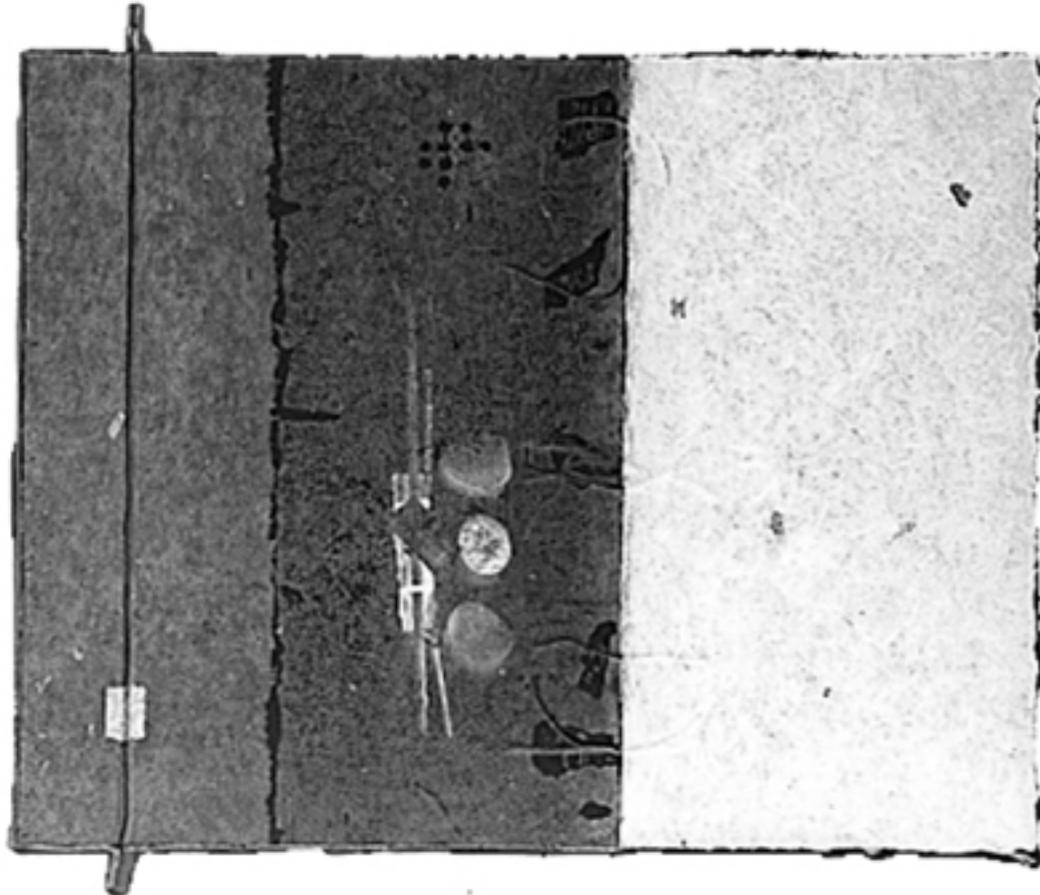


タイの版画について

和歌山県立近代美術館学芸員 奥村 泰彦

Q1、タイの版画作品の傾向について教えてください。

まず、版画が複製手段ではなく、独自の表現領域ととらえられている点が、大きな特徴でしょう。版画として独自の表現を生み出すことが前提となっているため、絵柄は当然として技術面でも作家自身がさまざまな工夫をすることに対して、非常に意識的であるように思います。おかげで抽象と言っても、作風についてはいろいろな傾向があります。もっとも抽象か具象かを問わず、硬い線やはっきりした色彩など、タイ美術に伝統的な密度の濃い表現は、版画に限らず一般に多く認められます。



ターウォン・コー＝ウドンヴィット
《儀式における象徴22》
62.0×78.0cm
木版、シルクスクリーン、紐、
コラージュ
1990年

Q2、タイの版画の中で特にポピュラーな版種はありますか、又、それに理由がありますか。

上記のように、時代ごとに流行があるようです。まず、最初に木版画の制作が始まりますが、当初は他の技法についての知識も乏しく、また材料もなかったようです。プラパン・スリソータという作家がメゾナイトという集成材を利用し始めたことが、作品の大型化につながったと言われています。エッチングも盛んですが、材料費の問題から亜鉛版での制作がほとんどだとのこと。シルクスクリーンで制作している作家もいますし、80年代にはリトグラフも盛んになりました。また、木の板をジグソーで引いて形を作り、平版で画面を作っていくウッドブロックという技法が、教育課程では盛んに行われているようですが、なぜか歴史に残るような作品は生まれていないようです。一方、同じことを紙でやるペーパーブロックというとても面倒な技法による作品には、高い評価を受けているものが多く、不思議なことです。近年では、腐食や感光という技術的な煩わしさを嫌い、自然回帰志向もあって、木版が再評価されているようです。

Q3、タイの版画の歴史について聞かせて下さい。

タイで版画が作られるようになったのは第二次世界大戦後のことです。それまでの伝統や蓄積はありません。タイに西洋の美術を紹介し、教育をはじめとして大きな影響を与えたのが、イタリア人のコラード・フェッローチで、ついにはタイに帰化してシラバ・ビラスリイと名乗りました。彼が、美術学校での教科書の挿絵に木版画を用いたのが、タイにおける版画の滥觴であると言われています。1950年代の後半になって、木版画で農村の伝統的な生活を描写した作品が制作されるようになり、それが東京やリュブリアナでの国際的な版画展で評価を受けたことから、版画制作は盛んになっていきます。そういう作家の一人であるチャルード・ニムサマーが、欧米で学び、さまざまな技法を持ち帰りました。彼は1966年、国立の美術学校に版画科を創設します。エッチングやシルクスクリーンも制作されるようになり、また技術的な難しさのため盛んにならなかつたリトグラフも、1980年代にカニヤ・チャレオンスプルケルが再興して流行しました。50年代の作品は具象ですが、60年代以降になると抽象的な作品が占める割合が非常に高くなり、現在もその傾向が認められます。また近年は、インスタレーションとして見せる作品も試みられています。

Q4、タイの作家が作品を制作するうえで、大切にしている考えはありますか。(仏教やタイ独自の文化について)

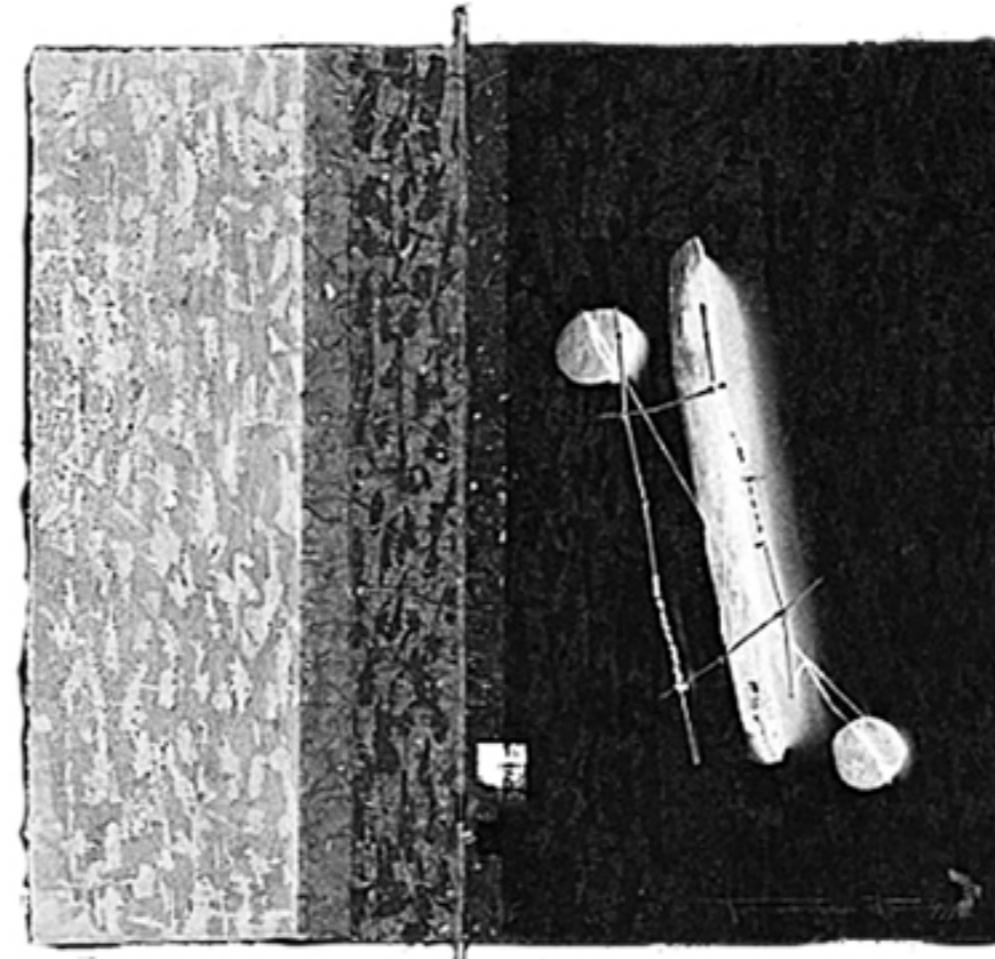
伝統的な文化をいかに受け継ぎ、生かしてゆくかについては、かなり意識的に取り組まれているようです。現代美術に取り組む作家も、大学では基礎的な勉強として、古典美術の模写などをやるようです。カリキュラムもそうなっているようですが、むしろ作家を目指す人たちはやるべきこととして古典の模写などを行っています。そのため、アユタヤやスコータイの美術に見られる、独特の柔らかいけれども同時に硬く、閉じた曲線を用いた造形が基本になっていると感じられます。また、生活に密着した数多くの仏教寺院があり、伝統的な造形と現代的な感覚は同居しています。寺院において、きらびやかな装飾の抽象性と仏像や説話絵画の具象性が矛盾無く共存している状態は、美術の在り方にも反映していると思われます。また、まったく抽象的な作品でも、仏教説話を下敷きに制作されています。一方、タイ仏教は小乗佛教であるため、非常に個人主義的な考え方方が根づいているらしく、個性が非常に重視されるようです。さまざまな表現に取り組む作家がいるのも、個性が尊重されることの裏返しかもしも知れません。

Q5、来年、タイと日本の交流版画展が行われます。タイ側の代表者、ターウォン氏について教えて下さい。(作品、人柄など)

ターウォン氏はまず、伝統的な素材を組みあわせて作り上げた複雑な画面で、国際的な評価を得ました。金箔や紐をすき込んだ紙と版画を組みあわせるなど、緻密な作業を必要とする繊細な作品です。紙のマチエールだけでも美しいのですが、制作の主題となっているのは、宗教的な行為にまつわるさまざまのものです。と言って、特別なものではなく、日常的なちょっとした占いやお祈りのための器具や、祖先を偲ぶよがなる古い道具などです。そんなものの中に、深い感情を見出せる繊細な方で、お酒も煙草もたしなまれません。が、日常ではどうも、いらっしゃるよう受け取られることもあるらしく、タイでは「彼は日本のビジネスマンのようだ」とも言われてました。

Q6、その他、タイの版画について興味深い話があれば教えて下さい。

一つの技法、一つのスタイルを守り続けて制作をする人がいる一方で、さまざまな素材、技法、表現に一人で取り組み、どんどん変身していく人も多いようです。一歩間違えば無節操のそしりを免れないですが、それだけ制作に対する態度が自由なのでしょう。また、タイにはちゃんとアート・マーケットがあるようで、タイの画廊の方に、日本人は旅行者も滞在者も作品を全然買わないのはなぜなのかと質問され、困ってしまったことがあります。タイで版画が盛んになったのは、国際的な展覧会に出品し、評価を得ることが比較的簡単な分野だったという理由もあります。版画は制作過程が複雑で、特別な設備が必要ですし、最近はインスタレーションやパフォーマンスの方が国際的に評価を得やすいこともあり、大学で版画を学んでも、卒業後はやめてしまう人も少なくないことです。それでも、技術のおもしろさにとどまらず、制作に対する基本的な姿勢を身につけるためには最適の分野として、進学希望者も多く、教育においても重視されているようです。



ターウォン・コー＝ウドンヴィット
《儀式における象徴1992/3》
74.2×80.0cm
木版、シルクスクリーン、紐、
コラージュ
1992年

故池田満寿夫さん公募展 グランプリは角間さん

第4回大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展



池田満寿夫大賞 「月の停車場」
角間貴生さん(福岡市南区)

版画など多彩な分野で国際的に活躍した芸術家、故・池田満寿夫さんを記念した公募展「大野城まどかぴあ版画ビエンナーレ展」の入賞、入選作品が、大野城市曙町2丁目大野城まどかぴあで開催されました。全国から寄せられた97点の版画作品の中から、銅版画家・山本容子さんと佐藤陽子まどかぴあ館長の厳正な審査によって、42名の皆さんの作品が選ばれました。グランプリの池田満寿夫大賞は、福岡市南区の角間貴生さんの「月の停車場」が選ばれました。

山本さんは「詩情豊かで、版の重なりがうまくマッチしている」と講評しました。

特報! <版画京都展実行委員会メンバーの皆様へ> 日本版画協会展 搬入、搬出代行について

毎年春の版画展搬入、搬出にはいつもご苦労されている方々が多いことと思います。そこで、委員会では作品集荷を関西で一本化し、2005年春により皆さんの搬入、搬出を無料とする(出品料、別配達は有料)計画を進めています。
詳細は決まり次第お知らせ致します。

委員会メンバーの特典として、ぜひご利用下さい。

版画京都実行委員会

公募展案内

(詳細を知りたい方は、募集要項をお取り寄せ下さい。)

■第4回飛騨高山木版画ビエンナーレ■

<応募期間> 2005年1月21日~2005年1月21日

<搬入> 2005年1月27、28日

<応募規定> 2003年以降制作の未発表作品。紙サイズ120×120cm以内の木版画。額装自由、ガラス不可。

<会期> 2005年3月12日~27日

<会場> 高山市民文化会館

<賞> 大賞1点50万円、他

<募集要項・問い合わせ> 高山市教育委員会生涯学習課 飛騨高山木版画ビエンナーレ事務局

〒506-8555 高山市花岡町2-18

<TEL> 0577-35-3155

<FAX> 0577-35-3172

■第11回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞■

<搬入> 2005年1月7日~12日

<応募規定> 木版画または木版を主たる版材とした2004年以降制作の未発表作品。満年齢で18~40歳。要額装、ガラス不可。額外寸80×100cm、厚さ10cm以内。一人1点まで。

<会期> 2005年1月30日~2月13日

<会場> 文化活動交流会館・ギャラリー

<賞> 大賞1点100万円、準大賞3点30万円、ほか。

<応募要項・問い合わせ> 木版画大賞事務局 〒322-0031 鹿沼市睦町287-14 鹿沼市立川上澄生美術館内

<FAX> 0289-62-8227

掲示板

会報にお寄せいただいた京都版画展の出品者の展覧会、活動情報です。詳細は会場等へお問い合わせください。

●大野 経典／近藤 幸●

<新鋭作家展>

会期： 2005年3月14日~21日 大野経典
2005年3月21日~28日 近藤 幸
場所： 平安画廊
京都市中京区寺町三条上ル
TEL/FAX: 075-231-0694 営業時間 AM12:00~PM8:00 定休日 月曜日

●川端千絵●

<川端 千絵 木版画展>

会期： 2005年3月15日(火)~27日(日)
場所： ギャラリーアーティスロング
京都市中京区三条通堀川西入る一筋目角
TEL/FAX: 075-841-0561

●二階 武宏●

<木口木版七人展>

会期： 2004年12月3日~12月21日 オープニング12月6日
場所： アートゾーン神楽岡
京都市左京区吉田 神楽岡町4
TEL : 075-754-0155

●福岡 舞子●

<京都精華大学大学院1回生展『M1展』>

会期： 2005年1月20日(木)~24日(月)
場所： 京都精華大学内ギャラリーフロール
京都市左京区岩倉木野町137
TEL : 075-702-3330

●崔 廷有／福岡 舞子●

<Work in progress 京都精華大学版画専攻大学院生展>

会期： 2005年3月1日(火)~6日(日)
場所： ギャラリーアーティスロング
京都市中京区三条通堀川西入ル
TEL/FAX: 075-841-0561

●崔 廷有●

<展覧会>

会期： 2005年4月8日~4月26日
場所： アートゾーン神楽岡
京都市左京区吉田 神楽岡町4
TEL : 075-754-0155

●山本桂右●

<「ミニヨン展」>

会期： 2004年12月8日~26日
場所： 日動画廊
東京都中央区銀座5-3-16
TEL : 03-3571-2553

<「新たなる視覚展」>

会期： 2005年1月13日~23日
場所： 福岡日動画廊
福岡市中央区渡辺通1-1-2 ホテルニューオータニ博多1F
TEL : 092-713-0440

<「昭和会展」>

会期： 2005年2月1日~2月10日
場所： 日動画廊
東京都中央区銀座5-3-16
TEL : 03-3571-2553

<「日下部直起、蛭田均、山本桂右、三人展」>

会期： 2005年3月1日~13日
場所： ギャラリー恵風
京都市左京区丸太町東大路東入る一筋目角(野村ビル2階)
TEL : 075-771-1011

●新会員●

<京都版画新人展>

会期： 2005年2月26日~3月6日
場所： ギャラリー三条
京都市中京区三条小橋西入 鶴の井ビルF3
TEL : 075-221-3341 FAX: 075-221-3308

編集後記

この号から、会報担当者が川端委員から堤、福岡、二階委員に代わりました。今回、初めてこのような会報を担当し、てんやわんやとようやく第4号が発行となりました。不慣れ、不手際、トラブル発生！とまあ、よくここまで出来たものだと、編集部一同、感心しております。これも、原稿を依頼させて頂いた方々、各種情報をお寄せ頂いた方々のおかげだと大変感謝しています。次回の発行は半年後を予定しています。皆さんからのご寄稿や、展覧会情報などを広く募集しておりますので、どしどしお寄せ下さい。それでは、今後とも宜しくお願い致します。尚、掲載希望の記事、情報等の送り先も代わりましたので、お間違えの無いよう注意下さい。

会報担当 堤 明香・福岡 舞子・二階 武宏 発行 版画京都展実行委員会

